

⑫製造現場で利用されるデータに対する適合性検証

KDDI総合研究所

セキュリティ要件に基づいてデータの取り扱いを自動的に検証することにより、セキュリティ監査等のコストを削減するとともに、サプライチェーン全体にわたるセキュリティ検証を可能とする。

A
創出・証明

B
構築・流通

C
検証・維持

技術の特長

■証跡を保管する＝デジタルエビデンス (DE) 管理

データがセキュアに取り扱われたことを検証可能な証跡を安全に保管する。

■証跡をつなぐ＝トラストストア

サプライチェーン上で関連する証跡をつなぎ合わせて全体を検証可能にする。で

技術ポイント

- 任意の検証要件に対応した検証ルールの記述手法
- 適合性検証に関連する処理の自動化と高速化
- 複数組織間での検証の実現

導入効果

- 適合性検証の効率化によって、検査等の負担を低減が可能
- サプライチェーン全体でインシデント等の問題を迅速に共有できるとともに、迅速な調査、情報追跡コストの削減が可能

実証システム

以下の2点をシェア工場のユースケースで実施

- データの取り扱いをシェア工場、納入先、双方で検証できること
- インシデント等によりデータの信頼が失われた場合には、その影響範囲をサプライチェーン全体で直ちに確認できること

